

〔帝王編年記<sup>十四</sup>〕承平元年辛卯七月十九日崩<sup>略</sup>○中 號宇多天皇、又亭子院、

〔大日本史<sup>三十一</sup>〕稱亭子院、稱宇多院、皆因其所居爲號、崩後停諡、故又因襲生時之號、稱某院耳、

〔日本紀略<sup>二</sup>〕天慶九年七月十日、太上皇<sup>○</sup>朱 出禁中、遷朱雀院、

○按ズルニ、此號ハ拾芥抄ノ諸院部ニ、朱雀院累代後院トアリ、以テ徵ト爲スベシ、

〔榮花物語<sup>一</sup>〕月ノ宴、安和二年八月十三日なり、みかど<sup>○</sup>冷 ありさせたまひぬ、<sup>○</sup>中 ありぬのみかど

は、冷泉院にぞおはします、されば冷泉院と聞えさす、

〔日本紀略<sup>三</sup>〕寛弘八年十月廿四日癸亥、戊刻冷泉院太上天皇崩于南院、<sup>○</sup>即冷 春秋六十二、

〔日本紀略<sup>八</sup>〕寛和元年九月十九日庚寅、後太上天皇、<sup>○</sup>圓 自堀河院遷御圓融院、

〔日本紀略<sup>九</sup>〕正曆二年二月十二日癸丑、依圓融寺法皇不豫、大赦天下、<sup>○</sup>中 今日法皇崩、十九日

庚申、葬太上天皇於圓融寺北原、

○按ズルニ、文ニ圓融寺法皇トアリ、其御在所號ナルコト知ルベシ、

〔拾遺抄注<sup>雜</sup>〕花山ハ山階ニアリ、元慶寺ト云御寺建ラレタリ、花山院ハ彼寺ニ御幸アリテ御出

家アリ、仍稱花山法皇、後ニ京ニ御坐ノ御所ヲ花山院ト號スルナリ、

〔日本紀略<sup>十一</sup>〕寛弘八年六月十三日乙卯、有御讓位事、廿二日甲子、太上天皇<sup>○</sup>一 崩一條院中殿、

〔左經記〕長元九年五月一日、有可奉稱號之議、<sup>○</sup>後一條ノ崩 御ニ由ルナリ、相府命云、尋一條院御時例、無宣旨、只奉

稱一條院云々、

〔日本紀略<sup>十三</sup>〕寛仁元年五月九日丙午、太上天皇<sup>○</sup>三 崩于三條殿、

〔榮花物語<sup>十二</sup>〕玉の村薺、長和五年正月廿九日、御讓位、<sup>○</sup>中 ありぬのみかどをも三條院と聞えさす、

〔續世繼<sup>二</sup>〕釣せぬ浦々、鳥羽殿は、此法皇の造らせたまへれば、さやうにや申さんと思へりしかども、

白河にもかたぐ御所ども侍りしかば、白河院とぞ定めまゐらせ侍りける、